

【江差病院】

方向性	具体的な対応(案)	委員意見
①病床数及び職員配置の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療需要等に応じて必要となる病床数の検討 ○ 病棟に係る看護単位の見直しや各階の看護職員及び看護補助者の適正配置等について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、人口減少に伴い患者も減少する中で、病院に様々な医療機能があるに越したことはないが、医療需要を勘案して、どこまでの医療機能を持つかの検討は必要。 ○ 病棟は、現在の入院患者からすると、当分は1病棟に集約してもあまり支障がないと思われる。経過を見て新型コロナの流行のように患者が増えるようであれば、2病棟に戻すということで、検討しても良いのでは。 ○ 休床となっている場所の有効活用の検討が必要。 ○ 出張診療外来については、大学の意向もあると思うが、継続いただきたい。
②他圏域との連携、医療資源の効率的活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南渡島の医療機関からの患者受入に係る課題分析 ○ ID-Linkを活用した南渡島など近隣圏域の医療機関との連携強化の検討 ○ 診療体制が非常勤医師のみとなっている診療科における効率的な診療の検討 ○ 江差病院への救急の集約化及び医療資源の効率的活用に向けた更なる取組の検討 ○ 救急集約後の円滑な患者受入体制の確保及び入院が必要な救急患者の入院受入体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急の集約化等による江差病院の医療従事者の業務負担の緩和策としてナースプラクティショナーの活用も検討すべき。
③人工透析の体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣圏域の医療機関との連携(紹介・逆紹介) ○ 中長期的な透析体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 透析については、患者は週3日通院することを踏まえると当面は継続が必要。
④ICTの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ ID-Link活用促進策の検討 ○ プログレスノートの公開、道南Medikaとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道南Medikaも同じID-Linkなので、南渡島との患者受入のための連携を進めるべき。
⑤地域医療連携推進法人の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国の技術的支援の活用 ○ 病床機能検討委員会等の活用により圏域内の役割分担や病床機能の集約化を継続検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急の集約で宿日直が1病院の負担になるようであれば、連携推進法人内の病院医師に当直医師を数ヶ月に1回来てもらうなども検討してみても良いのでは。 ○ 周辺の公立病院で病棟を持ち、夜勤看護師を配置する非効率な状況であるので、江差病院への入院の集約を進めるべき。

第2回 改革推進プラン検討部会の委員意見について

【羽幌病院】

方向性	具体的な対応(案)	部会委員意見
③規模の最適化	○ 更なる人口減による患者減を見据えて将来の効率的な病院運営に向けた規模の最適化(病床数、非常勤医師診療科の診療体制等)を検討	<p>○ 今後、人口減少に伴い患者も減少する中で、病院に色々な医療機能があるに越したことはないが、医療需要を勘案して、どこまでの医療機能を持つかの検討は必要。</p> <p>○ 出張診療外来については、大学の意向もあると思うが、継続いただきたい。</p> <p>○ 将来的には、道立病院を維持するためには、自治体病院を自ら運営している自治体とそうでない自治体との公平性も踏まえると、地域の自治体負担の検討も必要となってくるのではないかな。</p>
⑤離島への支援やへき地診療	<p>○ NP確保や遠隔医療併用による医師負担の減</p> <p>○ 遠隔医療システムの活用</p> <p>○ 巡回診療の継続</p>	<p>○ 離島医療支援については、遠隔医療を活用せざるを得ない。将来的には、医師確保の観点からも医師を24時間置くということは困難となる可能性が高い。そのような場合、例えば、ナースプラクティショナーを置いて遠隔医療で支援ということが、将来の形だと思うので、医療のDX化は何年かの計画で進めていく必要がある。</p>